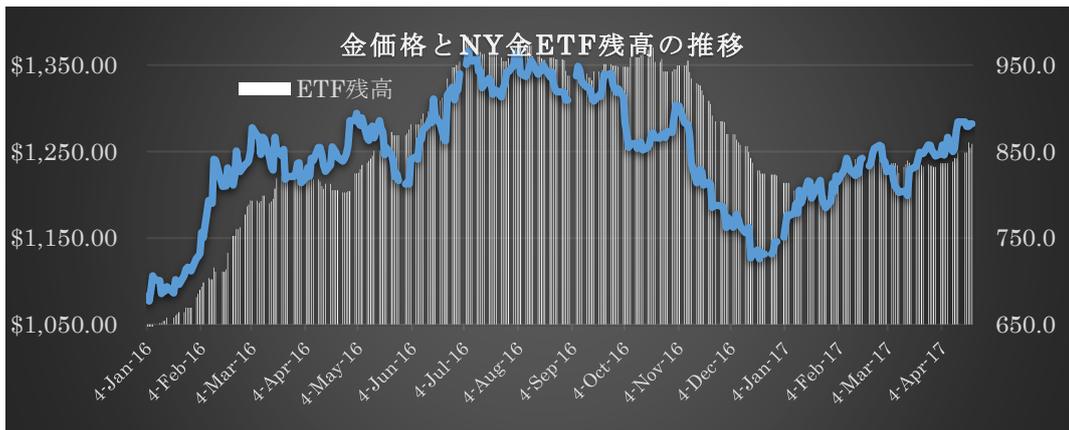


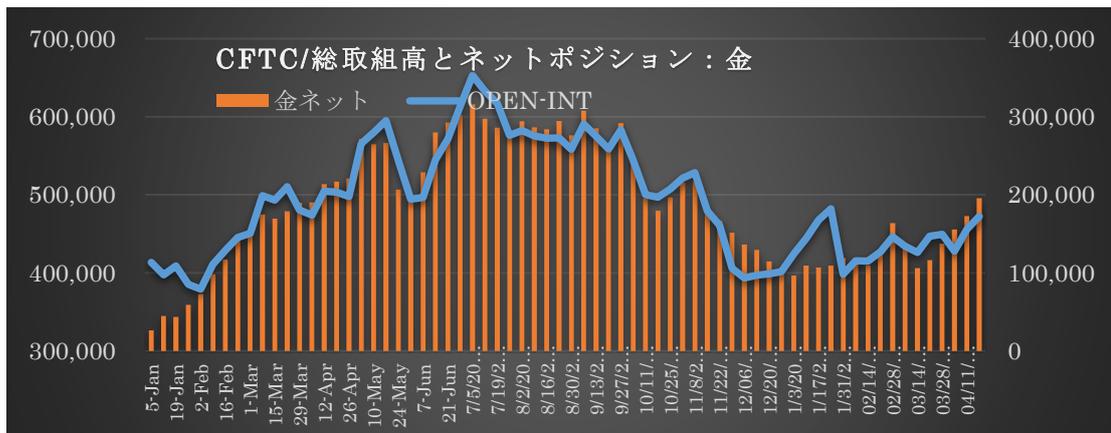
3つの視点

1. CFTC ポジション

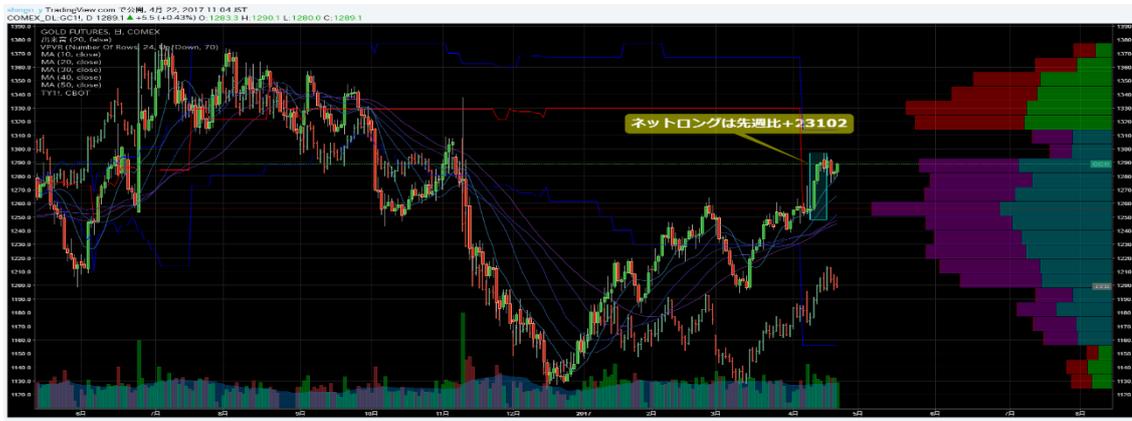
金：「欧州懸念第一ラウンド」



左軸：金価格（オンス）、右軸：NY ETF 保有高（トン）



グラフ) CFTC/総取組高と大口投機玉のネットポジション



金価格：CFTC リリース週の値動き <https://jp.tradingview.com/x/ytRfeidz/>

さてさて、金市場（とそ一部オフ銘柄等）では現物市場も先物市場もトランプ・ラリー直後の水準に戻し、現在では、有事という事で足場をカチカチに固めながら上を伺う展開となっています。

まず、NY金ETFを見てみましょう。COTリリース週の残高は前比+18.4トン、1週間の変化は、+9.7トンになっています。

そしてCFTC建玉は、ロング新規+26307とショート新規+3205でネットロングは195768(+23102)となっています。

先週に続きETF残高、CFTCネットロング共に堅調に増加していますね。

暫く大きな反応を示さなかったETF残高ですが、状況が状況だけにゆっくりと腰を上げて\$1250から残高を増加させ始めました。

またCFTC建玉では、先週は、一部の大口投機家がロングを\$1250で仕込み始めていると述べましたが、先物の手口としてはなかなか老練な運用者である事が分かりますね。

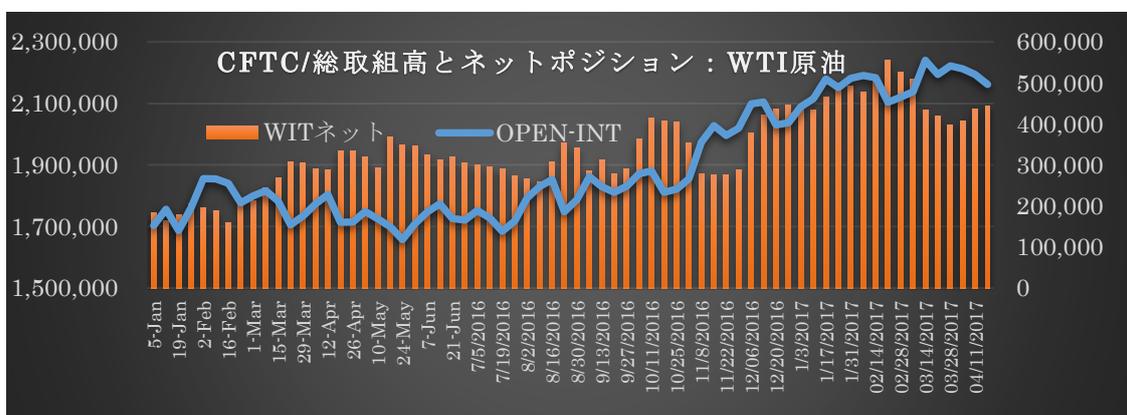
「有事」で\$1250は買だろ？という「後付け」アナリストのコメントがこの2-3日間かれます。

ペーパーアナリストの発言はさておき、この老練な運用者の手口は、地政学的リスクと欧州懸念の賞味期限と消費期限の残り日数を計算し尽くした上でのポジショニングという事で、舌を巻く絶妙なタイミングでしたね。

世界情勢は4末から5月に掛けて日に日に熱を帯びる状況となっていますが、欧州はフランス大統領選の第一段階という事で、24日朝方（ですね？）という事で、世界中の投機家やトレーダー達が寄付きを注目しています。

あくまで、第一段階である事を念頭に対処したいですね。

原油：「逃げ足」



上図グラフ) CFTC/総取組高と大口投機玉のネットポジション



WTI 原油 : CFTC リリース週の値動き <https://jp.tradingview.com/x/ft4IN5Mw/>
 COT リリース週の高値維持 (上図ボックス内) と、週末時点の値差が激しいですね。

COT リリース週のポジションを確認しましょう。CFTC 建玉は、ロング手仕舞い▼8103 とショート手仕舞い▼14943 でネットロングは 443883 (+6840) となっています。

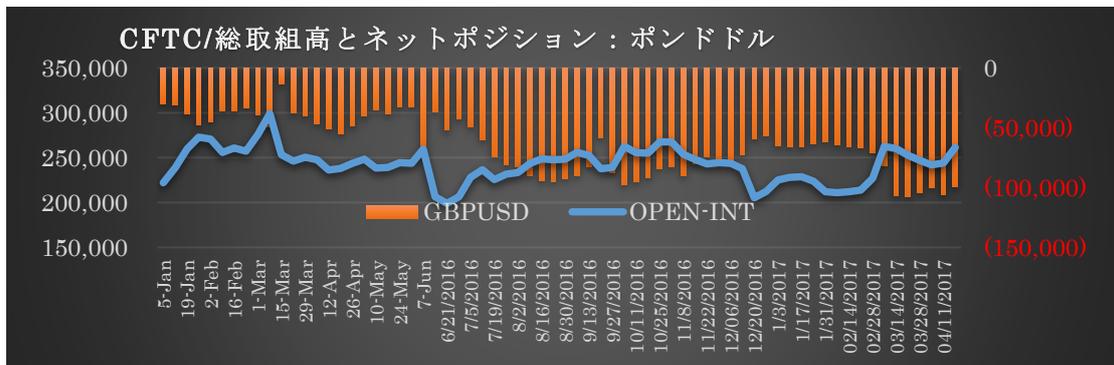
ここでは表示されていませんが、高値付近で一定量の取組が抜け落ちており、その「高値圏+取組減少からの下落」は一つのパターンでもありますが、なかなか逃げ足が速いですね。勿論、「逃げ足が速い方」は勝った方で、上述のロングショート増減から確認できる通り、高値圏まで吊り上げた手口の一部は底で売った「その他大勢」の投机家の買戻しであり、「逃げ足の速い方」は、それらの動きを利用して稼いでいる事になります。

この様に、ポジションを深堀して動向を追っていると色々興味深い発見がありますね。

さて、OPEC が 6 月以降も減産継続というニュースが流れても「そう、なる程ね。」で済まされる状況は、直近の米金利市場を取り巻く参加者の雰囲気にも似ていますね。

「OPEC<米国の存在感」、という事で厚く閉ざされている上値は若干下に移動しています。

為替:「メイ」



30463 (▼4301) になりました。

ポンドを見てみましょう。

「ネットショートが10万・・・ネット/取組比率が気になる・・・現状綱渡り状態」というのが先週の状況でしたが、今回のメイ首相の決断（総選挙を前倒しで実施する）を受け、ポンドドルは長らく攻防を続けていたエリア1.2500から抜け出し、ついでに直近高値（12/6）も抜けたところで様子見となっています。

キャパギリギリのネットショートも一先ずはガス抜きが出来ていますが、価格上昇率が比較的大きいため、取り残された売り方の動向には注意したいところです。

新規買い方も増えている為、気が付いたら誰もいない状況は避けたいですね。

円はどうでしょうか。

円売りのネットポジションは減少、しかし円の買い方も若干減少中という事で、現在のレンジから動きづらいのは確かなのでしょうか。

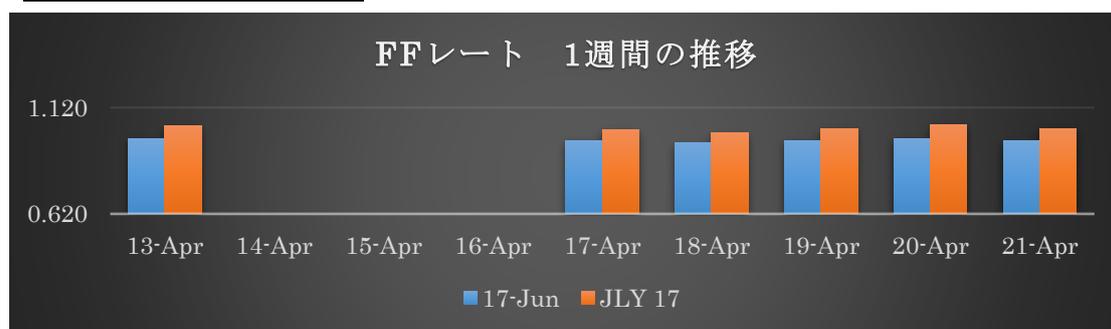
北朝鮮関連の地政学的リスクがあやふやなまま、今は既にイラン口撃にシフトした米国の動向や、欧州懸念等々を背景に、ゴールド>円>フランの割合で逃避資金がバランスされていますが、確かに地理的に見ても、円が真ん中に位置しているのは違和感がないですね。

II.金利動向

「4-5-6月」



※次回 FOMC の政策金利予想



※ F F 金利先物 一週間の推移（左から右へ）

今週も金利市場は完全様子見で、米 10 年債先物も基本は横ばいで推移しました。

FOMC メンバーの発言内容もタカ・ハト関わらず市場はスルーの状況で、これらは他市場同様に、欧州エリアのイベント、継続中の朝鮮半島とイランにおける緊張等が背景になっています。

このテンションは少なくとも 4-5-6 月と続くものですが、次回米 FOMC 利上げ時期が「6 月」と予想されている中、「見送り」も市場関係者の間で聞かれ始めました。

さすがに、世界情勢がネガティブなシナリオとなった場合は、米 FOMC も見送りの判断をせざるを得ない状況になる事は頭の片隅に置いておく必要があるのではないのでしょうか。

問題なのは、そのケースを想定した上で対ドル主要通貨のレンジを改めて調整する必要がある事で、その際は、その「賞味期限」と「次の一手」を明確に決めておく必要がありますね。

「どの位の期間」そのポジションを保有できるかが重要になります。

—このレポートに関しまして—

当レポートの著作権はすべてバーグインベスト株式会社（Burginvest Co.,Ltd.）に帰属し、「トレーディング・カレッジ」外への転載および無断引用は固くお断り致します。

また当レポートは、会員個人のみが閲覧いただき、法人内・コミュニティ外での回覧・シェアは固くお断りしております。（後日、回覧人数分の料金を申し受けます）。無断の転載などを見つけた場合、著作権者までご連絡ください。

また、このレポートは、市場の研究とその情報の提供を目的としたものです。投資方針や時期選択等の最終判断はご自身で判断されま
すようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、バーグインベスト株式会社は一切
の責任を負いかねますことをご了承願います。

ご理解をいただきまして、ありがとうございます。